

岡山市の男女共同参画の現状

基本目標Ⅰ 性別にかかわらず、一人ひとりの人権が尊重される明るいまちの実現

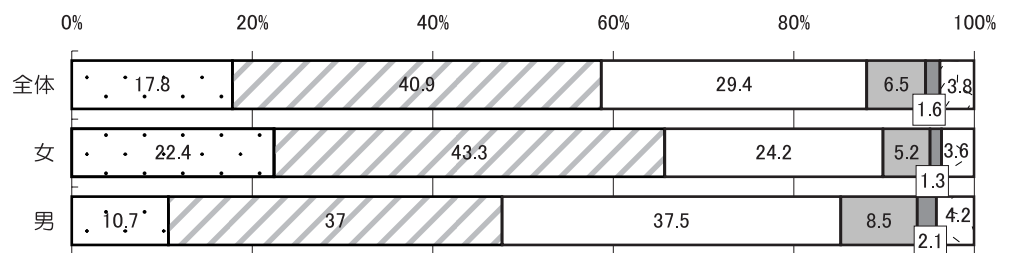
○「家庭」「地域社会」「職場」で、男性が優遇されていると思う人の割合は6割前後と高い。

○どの場においても、男性優遇と思っている人は女性のほうが多い。

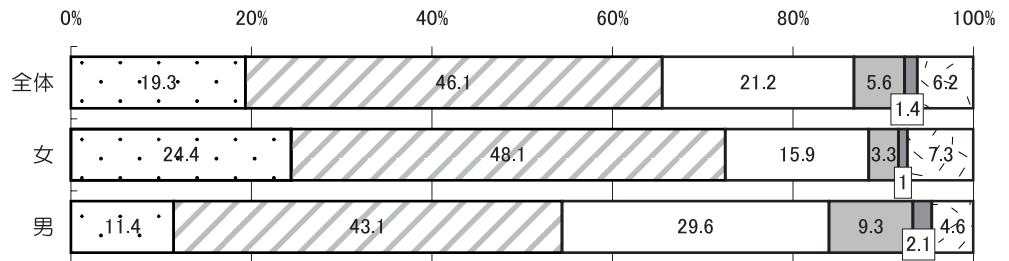
資料1 男女の地位の平等について

男性優遇 どちらかといえば男性優遇 男女平等
 どちらかといえば女性優遇 女性優遇 わからない

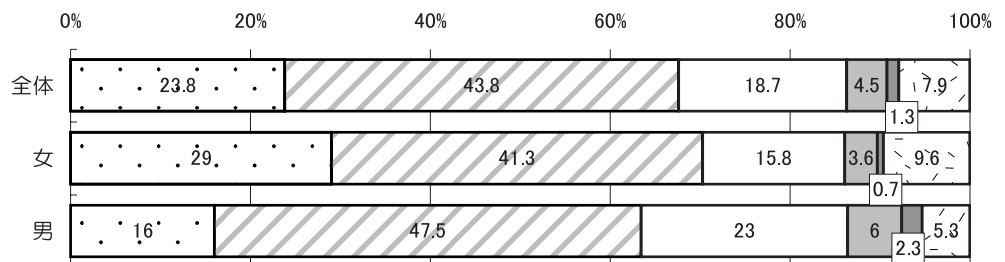
(1) 家庭で



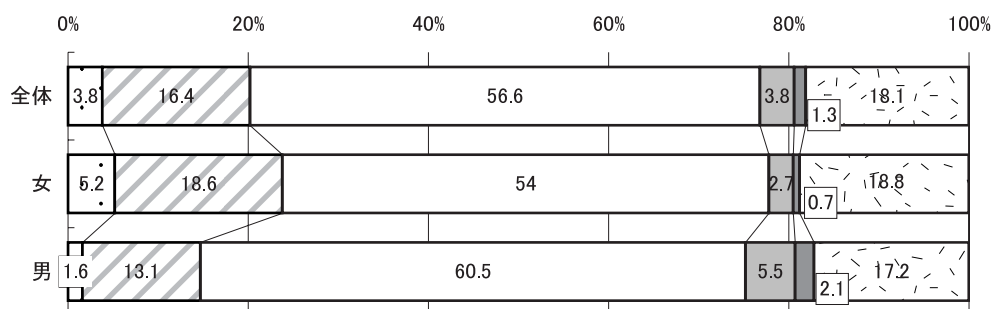
(2) 地域社会で



(3) 職場で



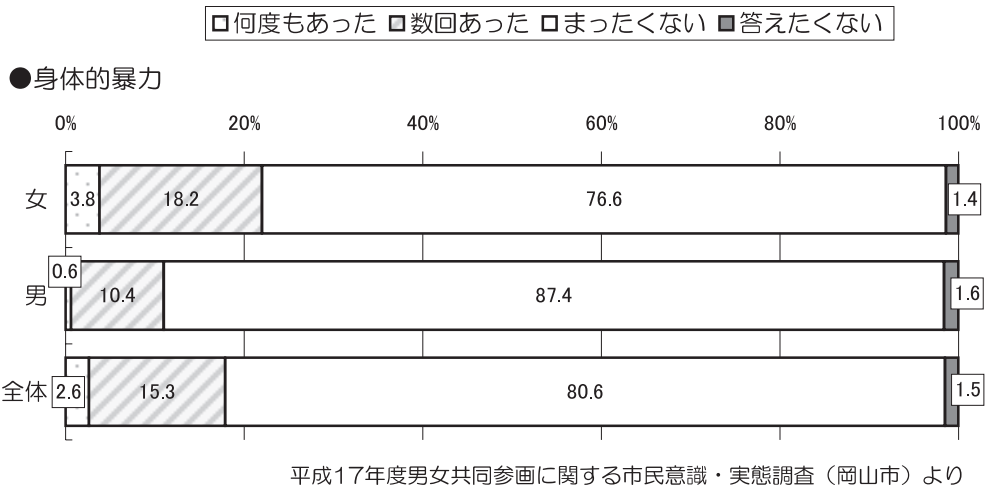
(4) 学校で



平成17年度男女共同参画に関する市民意識・実態調査（岡山市）より

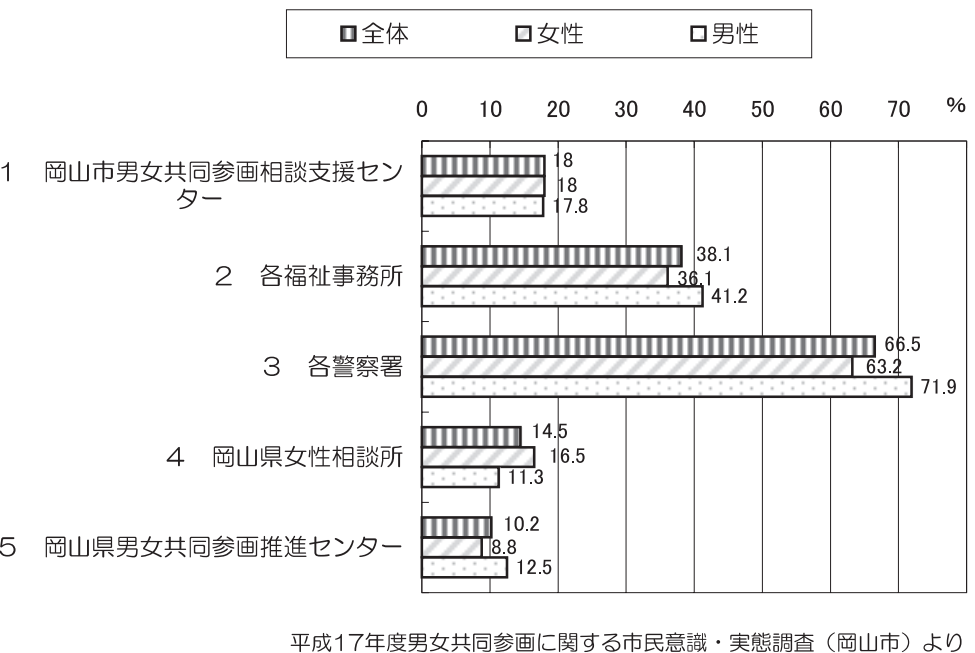
○約5人に1人の女性が身体的暴力を受けた経験がある。

資料2 配偶者からの暴力について



○警察署、福祉事務所の認知度が高く、DVの専門的な相談機関については、相対的に認知度が低い。

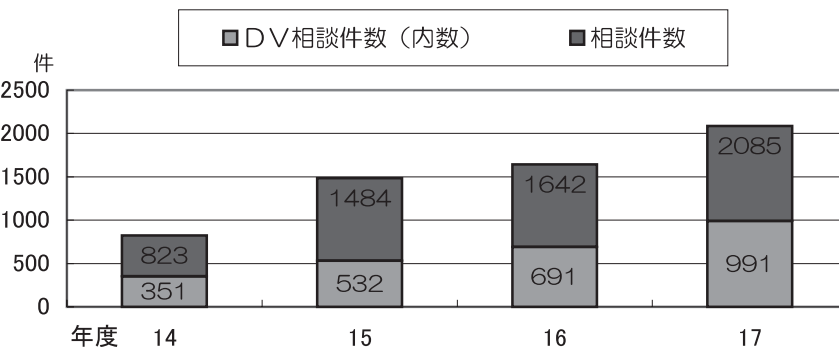
資料3 DVの公的相談機関の認知度



○いずれの相談機関も、性別によって特に認知度に違いがあるわけではない。

○相談件数は、相談業務開始から約2.5倍に増加。

資料4 市男女共同参画相談支援センターのDV相談件数の推移



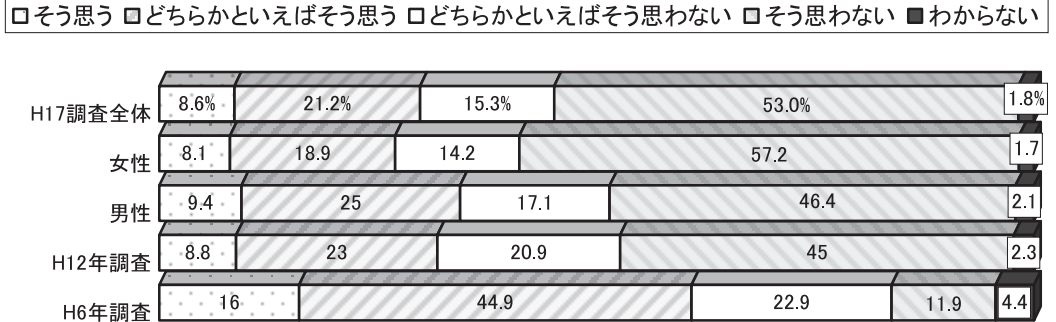
○DV相談件数（内数）は約2.8倍に増加。

○平成17年度の急増は、配偶者暴力相談支援センター業務を開始（平成16年12月）したことが一要因と考えられる。

○固定的な性別役割分担の考え方を肯定する人の割合は前回調査よりもさらに減少して3割を切っている。

資料5

「男は外で働くもの、女は家庭を守るものだ」という考え方について

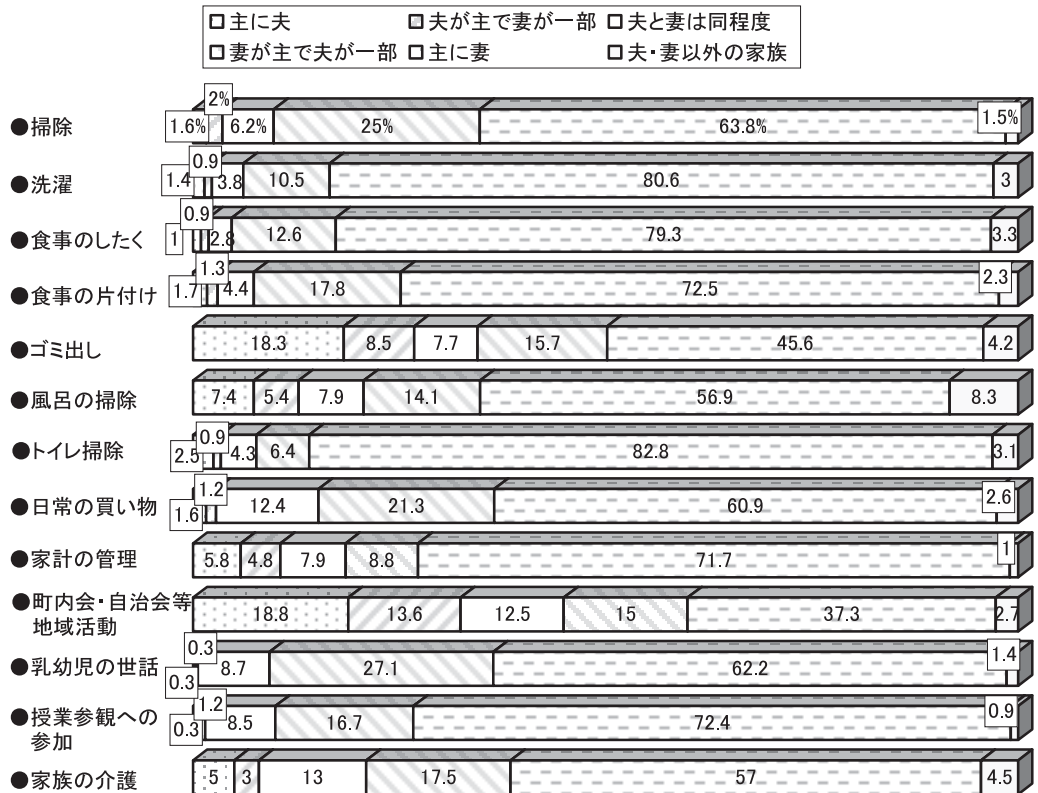


平成17年度男女共同参画に関する市民意識・実態調査（岡山市）より

○ほぼ全項目にわたって「主に妻」と答えた人の割合が高い。

資料6

家事分担について



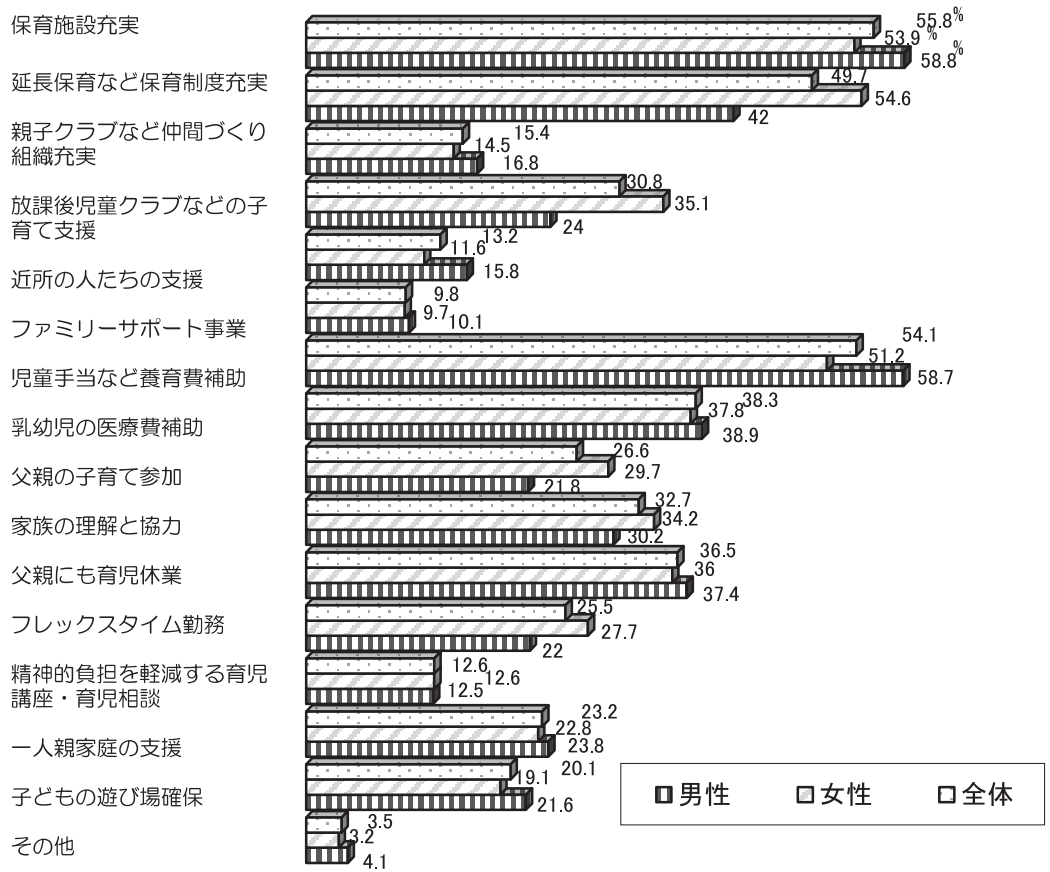
平成17年度男女共同参画に関する市民意識・実態調査（岡山市）より

○資料5に見られるような固定的な性別役割分担意識への否定的意見とは裏腹に、実際の家事分担は妻の方に偏っている。

○社会的保育にかかわる施設・制度の充実と、経済的負担の軽減を求める声が強

資料7 子育てについて

●子どもを安心して産み育てるのに必要なこと

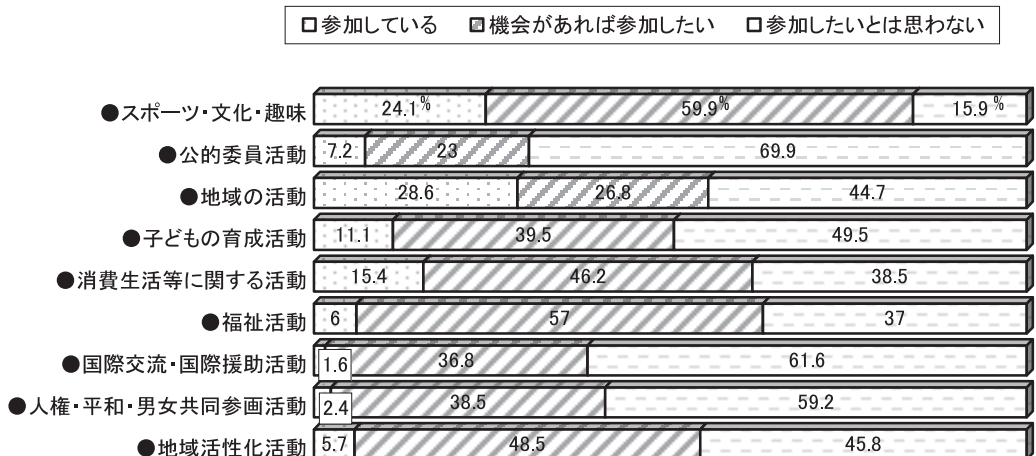


平成17年度男女共同参画に関する市民意識・実態調査（岡山市）より

○参加している割合が比較的高いのは「スポーツ・文化・趣味」「地域の活動」「消費生活等に関する活動」である。

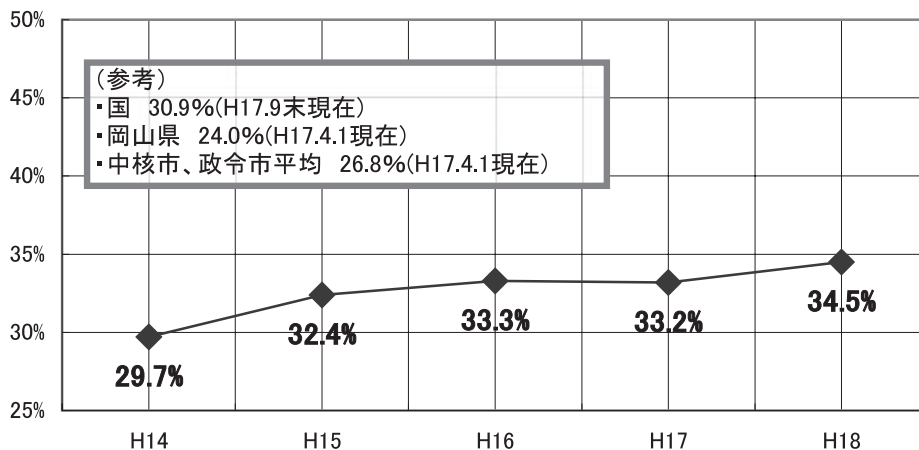
資料8 地域活動等への参加について

○どの活動も「機会があれば参加したい」と思う人が多いものの、実際には参加できていない状況にある。



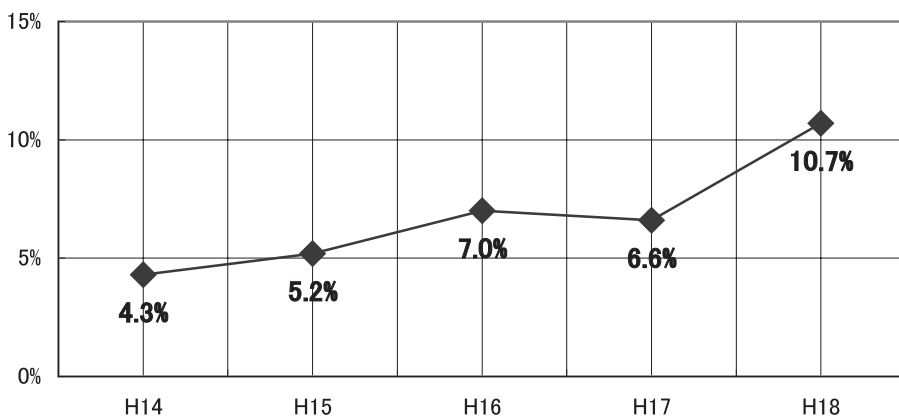
平成17年度男女共同参画に関する市民意識・実態調査（岡山市）より

資料9 市の審議会の女性委員の割合



○平成18年度は、小学校が9.2%（87校中8校）、中学校が14.3%（35校中5校）である。

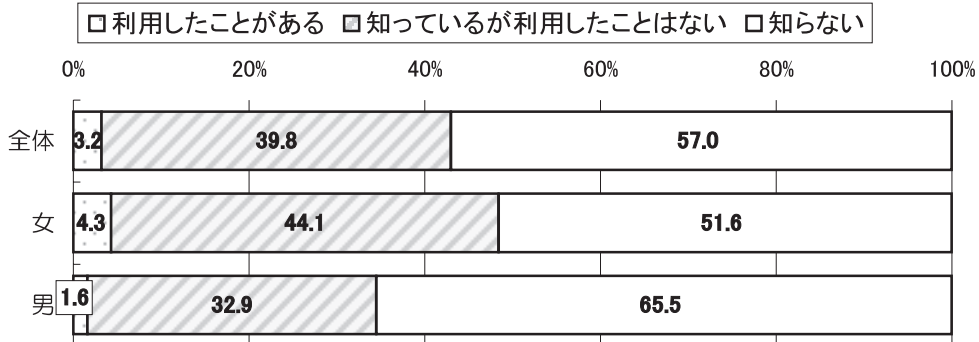
資料10 市立小中学校における女性のPTA会長の割合



○市の男女共同参画の推進拠点「さんかく岡山」の認知度は、知らない人が半数をこえる。

○男性よりも女性の認知度が高い。

資料11 さんかく岡山の認知度



平成17年度男女共同参画に関する市民意識・実態調査（岡山市）より